

U.S. Indicators

発表日: 2023年8月2日(水)

米国 製造業の調整に広がり(7月ISM製造業指数)

～米製造業部門は需要鈍化を背景に23年末にかけて調整する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年7月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、46.4(前月46.0)と0.4%上昇にとどまり、市場予想中央値46.9(筆者予想46.8)を下回った。拡大縮小の分岐点である50を9ヵ月連続で下回っており、製造業の調整は長期化している。また、ヘッドラインの数字が上昇し、製造業部門の調整幅の拡大に歯止めがかかったことを示唆しているものの、7月に製造業国内総生産の92%(6月71%)が縮小したほか、縮小した業種が18業種中16業種に増加するなど、製造業の悪化に広がりが見られる。

世界経済の鈍化や先行き不安を背景に、新規受注、生産、在庫が基本的に縮小を続けている。また、入荷遅延が供給制約の改善や需要の鈍化によって50を10ヵ月連続で下回った。さらに、製造業の調整が長期化するなか、これまで抑えられていた雇用の削減が始まっている。このようなもと、インフレの動向を示す仕入価格指数は小幅上昇したが低い水準にとどまっており、インフレ圧力の減退継続を示した。

7月の構成項目別の変化では、雇用が低下した一方、在庫、新規受注、生産、入荷遅延が上昇した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、雇用が前月比▲0.74%pの押し下げ寄与となった一方、在庫が前月比+0.42%pt、新規受注が前月比+0.34%pt、生産が前月比+0.32%pt、入荷遅延が前月比+0.08%ptの押し上げ寄与となった。

サブ項目では、輸出受注DIが46.2(前月47.3)と低下し、輸出の減少幅拡大を示した一方、輸入DIが49.6(前月49.3)と上昇し、輸入の減少ペースの鈍化を示唆した。

仕入価格指数は、42.6(前月41.8)と小幅上昇したものの低い水準にとどまっており、インフレ圧力の弱まりを示した。商品別では、電気部品等が上昇した一方、プラスチック樹脂、貨物等が下落した。また、供給不足品では、引き続き電気部品、電子部品、半導体などが挙げられた。

ISM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
22/07	52.7	48.6	53.3	49.8	56.6	55.2	51.3	60.0	52.6	54.4
22/08	52.9	50.4	51.1	54.2	53.8	55.1	53.0	52.5	49.4	52.5
22/09	51.0	47.3	51.0	49.3	55.1	52.4	50.9	51.7	47.8	52.6
22/10	50.0	48.2	51.9	49.9	53.0	46.8	45.3	46.6	46.5	50.8
22/11	49.0	46.8	50.9	48.9	51.1	47.2	40.0	43.0	48.4	46.6
22/12	48.4	45.1	48.6	50.8	52.3	45.1	41.4	39.4	46.2	45.1
23/01	47.4	42.5	48.0	50.6	50.2	45.6	43.4	44.5	49.4	47.8
23/02	47.7	47.0	47.3	49.1	50.1	45.2	45.1	51.3	49.9	49.9
23/03	46.3	44.3	47.8	46.9	47.5	44.8	43.9	49.2	47.6	47.9
23/04	47.1	45.7	48.9	50.2	46.3	44.6	43.1	53.2	49.8	49.9
23/05	46.9	42.6	51.1	51.4	45.8	43.5	37.5	44.2	50.0	47.3
23/06	46.0	45.6	46.7	48.1	44.0	45.7	38.7	41.8	47.3	49.3
23/07	46.4	47.3	48.3	44.4	46.1	46.1	42.8	42.6	46.2	49.6

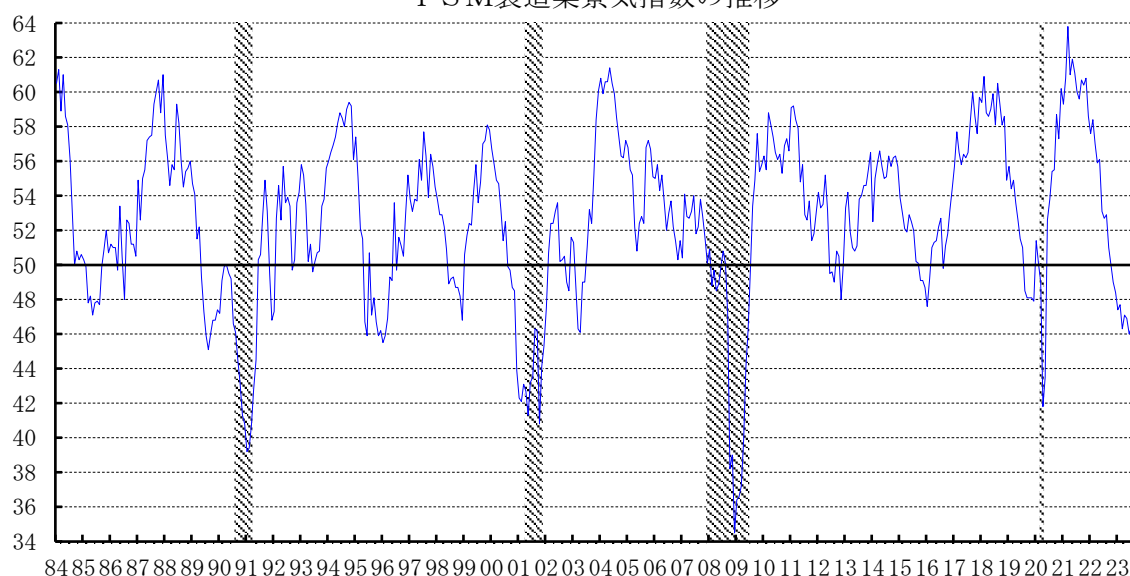
(出所) ISM: the Institute for Supply Management



7月は、全18業種のうち石油・石炭、家具・同関連の2業種の拡大にとどまり、6月の4業種から減少した（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。主要6業種では、石油・石炭の1業種が成長した。一方、縮小した業種は、アパレル・皮革製品、プラスチック・ゴム製品、紙製品、繊維、木材製品、コンピューター・電子機器、化学製品、一次金属、食品・飲料・タバコ、電気設備・部品、印刷・関連サポート活動、その他製造業、加工金属、輸送機器、非鉄、一般機械の16業種と6月の11業種から減少した。

先行きに関して、生産活動に先行する新規受注が47.3（前月45.6）、受注残が42.8（前月38.7）と依然低い水準にとどまっているほか、銀行破綻を受けた信用状況の引き締めによる需要鈍化を背景に、年内、製造業部門の調整が続くと予想される。

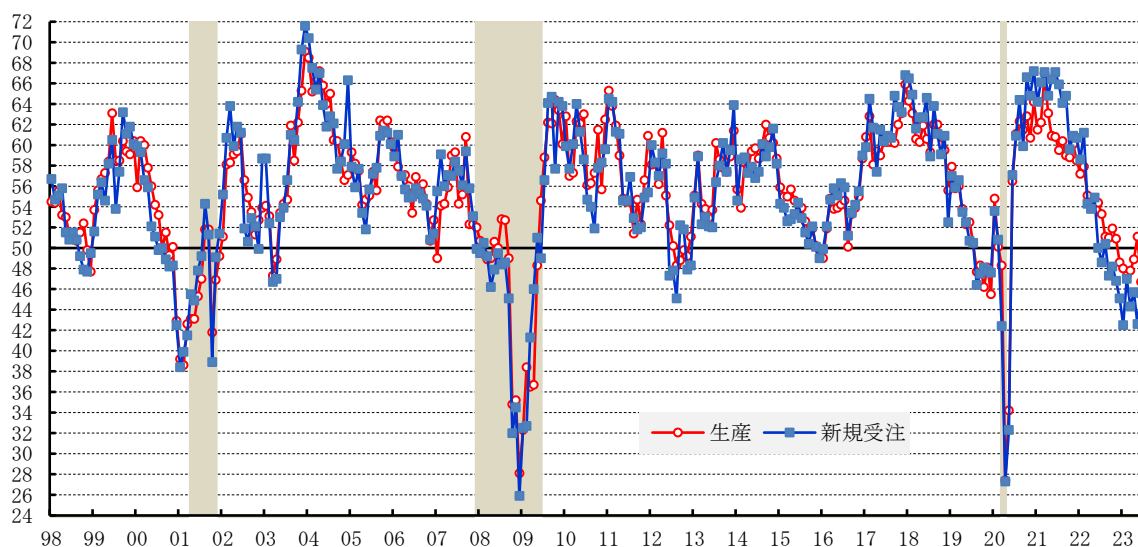
I S M製造業景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シャド一部は景気後退期。

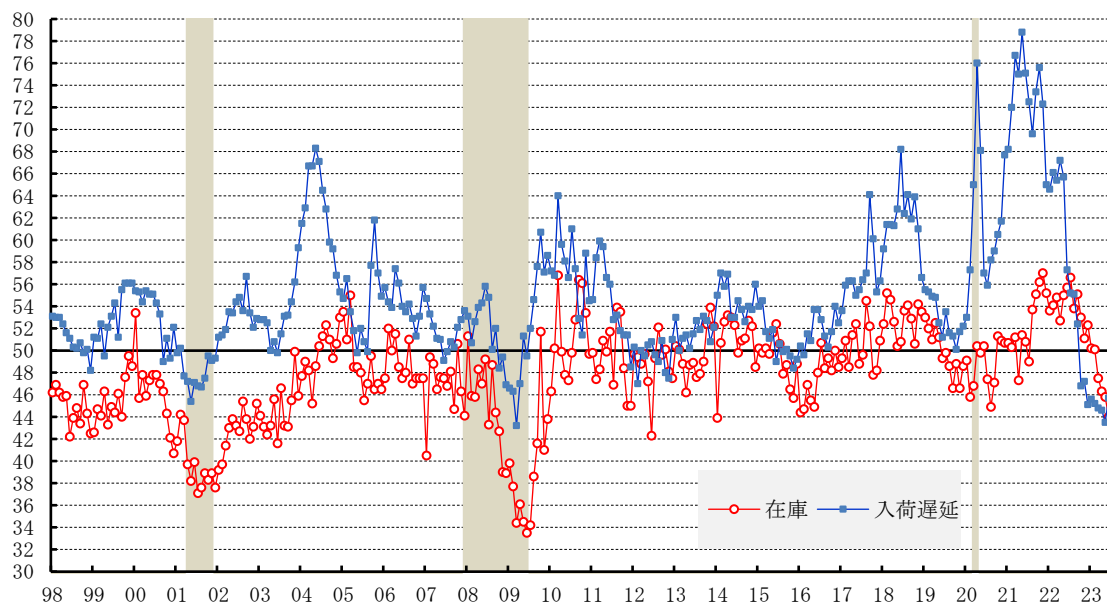
I S M景気指数の推移



(出所) I S M

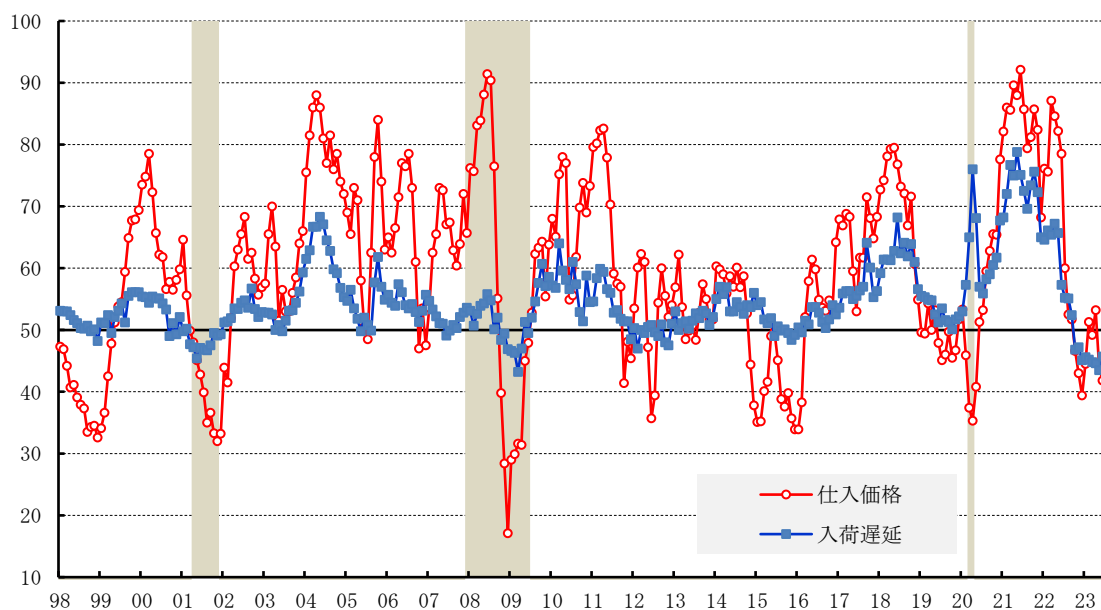
(注) シャド一部は景気後退期

I S M景気指数の推移



(出所) I S M (注) シャドー部は景気後退期

I S M景気指数の推移



(出所) I S M (注) シャドー部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

